

これは、筆石という絶滅した動物の化石です。八代市坂本町深水中に分布する石灰岩から産出しました。産出した地層は、古生代シルル紀(約4億4000万～4億2000万年前)にできた深水層で、その中の石灰岩からはサンゴなどの化石が産出します。

筆石は、半索動物という脊索に似た組織を持つ動物で、現在生きている動物の中では、フサカツギの仲間と考えられています。体は小さく、群体(コロニー)を作って生活していました。図に示すように、各個体が胞の集まり(胞群)の中に集まって群体を作っており、1つの個体は1つの胞の中で生活していました。写真の赤枠の中を見てみると、小さな胞がたくさん集まって鳥の羽のような形を作っているのが見られます。これが、筆石の化石です。筆石の化石は、岩石の表面に走り書きをしたような形状をしているため、初めは化石とは考えられていませんでした。そのため、ギリシャ語で「字の書かれた石」を意味する名前が付けられました。

筆石は、古生代カンブリア紀中期(約5億年前)に出現し、石炭紀前期(約3億2000万年前)に絶滅しました。中でもオルドビス紀からデボン紀前期(約4億9000万～3億9000万年前)に生息していた浮遊性の筆石は、進化の速度が速く広範囲に分布していたことから、世界的にきわめて重要な示準化石(その地層の来た時代を決定することができる化石)になっています。

ところが、残念なことに、日本では筆石の化石の産出は非常に少ないそうです。(廣田志乃)



写真 筆石の化石(赤枠の中)

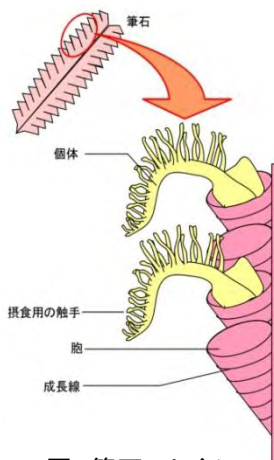


図 筆石のしくみ

フィールドミュージアムへ飛び出そう!

熊本県内さまざまな場所で自然観察会を行っています。

平成27年度は、これまで「海辺の生き物」、「阿蘇の草花」、「河原の石」、「夏の星座」などの自然観察会を行ってきました。残りのプログラムは、あと2つです。ぜひご参加ください。お待ちしております。



海辺の生き物を観察しよう

地層と化石の観察をしよう

- プログラム名: 落ち葉図鑑をつくらう  
実施場所: 和水町江田肥後民家村  
実施日: 11月29日(日) 受付期間: 10月16日～11月6日
- プログラム名: 水辺の冬鳥を観察しよう  
実施場所: 宇城市大野川河口周辺  
実施日: 1月24日(日) 受付期間: 12月21日～1月10日

※申込み方法等詳しくは、熊本県HP及び当センターの年間行事案内をご覧ください。

募集してます

熊本を知る講座 「植物観察基礎講座」を開催します!

実施日: 平成27年12月～平成28年3月の毎月第2日曜日(全4回) 時間: 10時～12時  
 実施場所: 博物館ネットワークセンターとその周辺  
 内容: 植物観察に必要な知識や技術(写真撮影・標本の作り方等)を講義と実技で学びます。  
 参加申し込み方法: 往復ハガキに「郵便番号」、「住所」、「氏名」、「年齢」、「電話番号」を御記入のうえ、熊本県博物館ネットワークセンター(〒869-0524 宇城市松橋町豊福1695)に、11月27日までに申し込んでください。  
 ※定員を超えた場合は、抽選により受講者を決定します。  
 ※申込ハガキに記載されている個人情報は、講座の運営に係ること以外に使用することはありません。

# 熊本の自然と文化

熊本県博物館ネットワークセンターだより

## 平成27年度 夏休みキッズミュージアムが開催されました



化石のペンダントを作ろう



空飛ぶ種子を作ろう



石臼できなこを作ろう



親子で拓本にチャレンジ



セミの抜け殻探し



どんぶりクラブをしよう

当センターでは、平成27年7月18日(土)～20日(月)までの3日間、子どもたちを対象とした体験教室「夏休みキッズミュージアム」を開催し、延べ457人の方に参加いただきました。

今回は、「石臼できなこを作ろう」、「化石のペンダントを作ろう」、「空飛ぶ種子を作ろう」など17種のプログラムに分かれて参加した子どもたちはいずれも、真剣に、そして楽しく熊本の自然や文化を学んでいた様子でした。

### お知らせ

当センターが主催する企画展示・移動展示等を紹介します

#### ★熊本県総合博物館ネットワークオープニング記念共同企画展 「再発見! くまもとの博物館」

開催場所: 熊本県立美術館分館 期間: 平成27年10月3日(土)～11月5日(木)

- 企画展 「ちょっと昔の暮らし探検Ⅶ」  
開催場所: 当センター 期間: 平成27年10月1日(木)～11月29日(日)
- 移動展示 「フィールドサインを見つけにいこう」  
開催場所: 熊本県民交流館パレア アクシア 期間: 平成27年10月30日(金)～11月29日(日)
- 移動展示 「絵葉書ものがたり」  
開催場所: 金魚の館(長洲町 金魚と鯉の里広場内) 期間: 平成27年10月31日(土)～11月30日(月)



### 熊本県博物館ネットワークセンター

〒869-0524 宇城市松橋町豊福1695  
 TEL 0964-34-3301 FAX 0964-34-3302

Eメール: [hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp](mailto:hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp)

※最新号及びバックナンバーは、熊本県博物館ネットワークセンターホームページに掲載しています。是非ご覧ください。

No. 164 民俗 ひで鉢

ひで鉢とは、小さく割った松の根を燃やして明かりとする照明器具です。県内ではアカシヤトボシなどと呼ばれました。アカシヤトボシも明かりのことです。手元を照らすくらい小さな明かりを県内ではコトボシと呼ぶところも多いようです。松の根は県内ではコエマツ、トボシマツなどと呼ばれます。脂分が多く燃えやすいので、古くから火の素材として利用されていました。

写真の資料は、阿蘇郡西原村で明治時代まで使われていたものです。ヒタキイシと呼ばれ、夜なべ仕事などの時に手元の明かりとしていました。これは灰石を台の形に加工してありますが、囲炉裏の側に平たい石を置いたものや、トタンや鉄鍋を利用したものもありました。

明かりには、他の動植物の油を燃やす照明やろうそくなどもあり、ひで鉢と併用されていましたが、明治の中ごろからだんだんと石油ランプに代わっていきました。また、大正時代から昭和の中ごろにかけて電灯が普及すると、明かりは火から電気へと移り変わっていきました。(迫田久美子)



17.5cm × 18.5cm × 23.5cm

No. 165 動物 アゲハ *Papilio xuthus* (アゲハチョウ科)

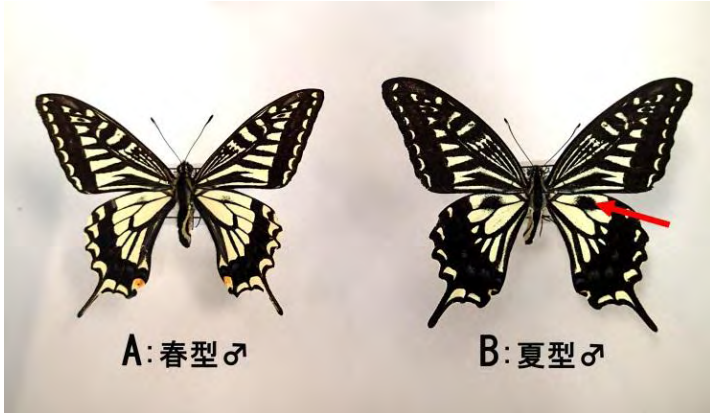
アゲハは日本全土に分布している身近なチョウです。成虫の寿命は数週間ほど短いのですが、春から秋の間に羽化(蛹から成虫が出てくること)と産卵を4~5回くり返すため、長期にわたってその姿を見ることが出来ます。

チョウの仲間には、同種でも羽化する季節によって体の大きさや翅の模様の違いが生じるものがあり、これを「季節型」と呼びます。アゲハには2つの季節型があり、蛹で越冬して春に羽化するものを「春型」、初夏から秋にかけて羽化するものを「夏型」といいます。

写真の標本はどちらも宇城市松橋町豊福で採集した雄のアゲハです。Aは4月に採集した「春型」、Bは9月に採集した「夏型」です。2つを見比べてみると、BはAよりも体がひと回り大きく、翅表面の黒いすじがより太いため全体的に黒っぽく見えます。

また、アゲハの「春型」は、雄も雌も見にほぼ違いがありませんが、「夏型」では、雄の後翅中央に黒い点(写真の赤矢印)がはっきりとあらわれます。「夏型」の雌にはこのような黒い点は見られないため、これが「夏型」の雌雄を見分けるポイントになります。

アゲハのように見慣れた昆虫でも、季節を通して観察を続けることで、このような面白い発見をすることができます。(小原 舞)



A: 春型♂

B: 夏型♂

No. 166 歴史 日本赤十字社佛國派遣救護班勤務心得 (八代市竹田家資料)

第一次世界大戦において、フランス政府からの要請で、日本赤十字社が大正3年(1914)12月からフランスへ派遣した救護班の人員には、この勤務心得が配られました。

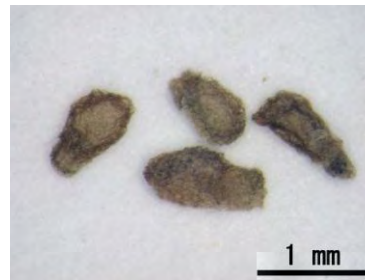
この資料には、フランス政府の指揮を受けて救護に従事することや、手術では、フランスの国情や風俗に気をつけ、患者の感情を害さないようにすることなどの注意点が記されています。

また、日本赤十字社社長花房義質からの訓示に「重要な任務だが、(中略)この心得書を執務上の指針とし、各員が心を一緒にし、互いに協力して業務を行うように」と記されています。

また、フランス政府は、日赤救護班が手術を行う際に立会人を置くなど、その救護能力を不安視していましたが、手術の力量と包帯の技術、班員の勤務心得を踏まえた真摯な人柄に触れると、負傷した多くのフランス人兵士が日本救護病院を希望し、救護班が二度の延長を経て帰国する時は、フランス政府が三度目の延長を希望する程の信頼を得ていました。(堤 将太)



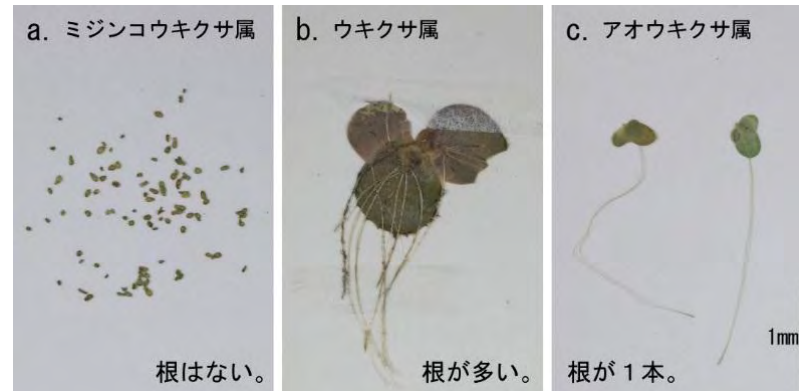
No. 167 植物 ミジンコウキクサ *Wolffia globosa* (ウキクサ科)



ウキクサの仲間は、水田や池、水路などの淡水でよく見られる水草で、水底(地面)に根を降ろさず、水面を漂って生活しています。体のつくりは、丸い葉のような形の葉状体があるだけに見えますが、花を咲かせ種子をつくる種子植物です。左の写真は、南ヨーロッパ原産で世界最小の種子植物といわれるウキクサの仲間、ミジンコウキクサの標本です。1979年に熊本市で採集されたものです。葉状体は長さ1mmもありません。ミジンコウキクサもまれにですが花を咲かせます。葉状体の中央に花孔とよ

ばれる穴が開き、そこに花が咲きます。写真の標本には、残念なことに花はありません。

日本で見られるウキクサの仲間には、ミジンコウキクサが含まれるミジンコウキクサ属の他に、ウキクサ属とアオウキクサ属があります。これら3属は、1つの葉状体から出る根の本数で見分けます。ミジンコウキクサ属(写真a)では根はありませんが、ウキクサ属では3~10本程度(写真b)、アオウキクサ属では1本の根が出ています(写真c)。ウキクサを見つけたらルーペで花や根を探してみましょう。(前田哲弥)



a. ミジンコウキクサ属

b. ウキクサ属

c. アオウキクサ属

根はない。

根が多い。

根が1本。